

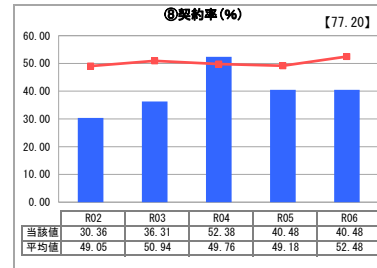
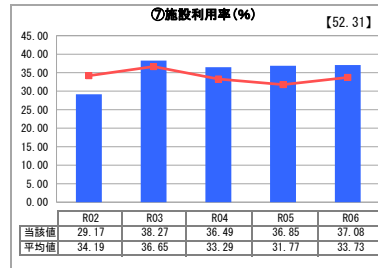
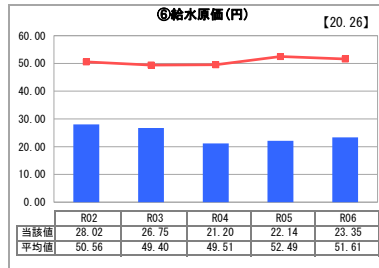
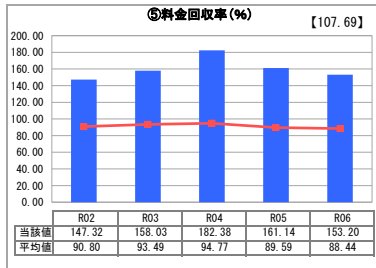
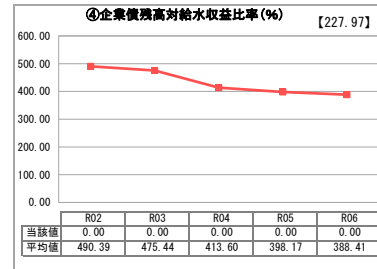
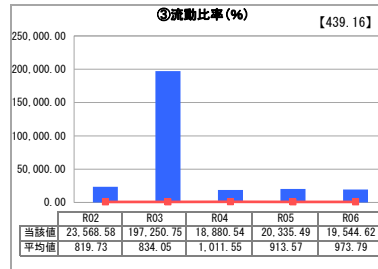
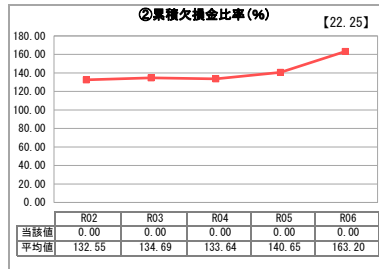
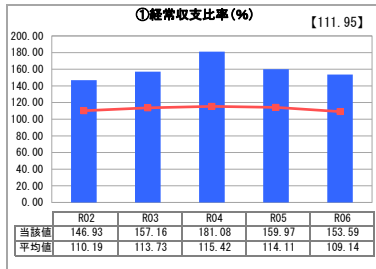
# 経営比較分析表／団体全体（令和6年度決算）

鹿児島県 鹿児島市  
【事業概要】

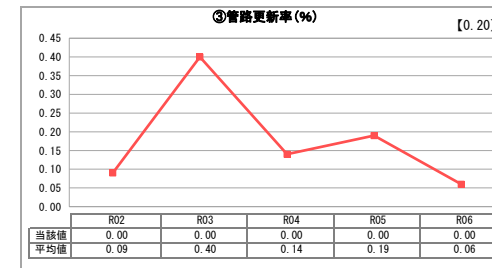
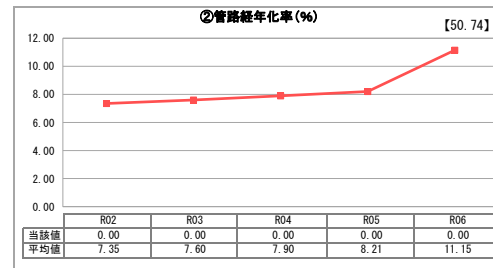
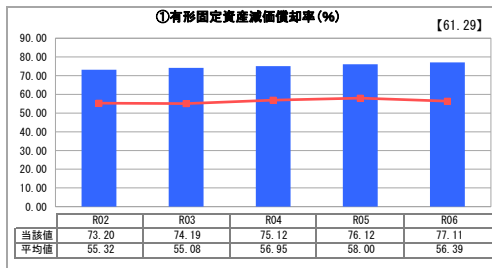
業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m <sup>3</sup> /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m <sup>3</sup> )
法適用	工業用水道事業	1,680	極小規模	1	623
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m <sup>3</sup> /日)	管理者の情報	
-	99.6	4	680	自治体職員	

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[ ]	令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率と⑤料金回収率は、各年度100%以上であり、費用を工業用水道料金等で賅っている。
- ②累積欠損比率は各年度0%で、累積欠損金が生じていないことを示している。
- ③流動比率は、各年度100%以上で、短期的な債務を支払える現金等を保有できている状況である。3年度に上昇した理由は、流動負債(未払金)が少なかったことによるものである。
- ④企業債残高対給水収益比率は各年度0%で、企業債の借入が生じていないことを示している。
- ⑥給水原価は、類似団体と比べ低い状況であり、今後も同原価の抑制に取り組んでいく。
- ⑦施設利用率は、3年度から給水量が増加していることにより、類似団体に比べ高い状況である。
- ⑧契約率は、4年度は契約水量が増加したことにより上昇したものの、類似団体に比べ低い状況である。

### 2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率は、年々増加傾向にあり、既存施設の経過年数が高まっている。
- ②管路経年化率は各年度0%で、法定耐用年数を経過した管路延長がないことを示している。
- ③管路更新率は各年度0%で、当該年度に更新した管路がないことを示している。

## 全体総括

責任使用水量制により一定の収入は確保できるものの、資材単価及び労務単価の上昇傾向などにある中、今後、既存施設の維持管理や経年劣化に伴う改良・更新に要する費用の増加が見込まれるなかで、工業用水を安定供給するため、計画的かつ効率的な事業運営を行っていく必要がある。老朽化の状況については、今後も、財源確保や人員確保に努めながら、効率的に更新を行っていく必要がある。

これら課題に対応するため「第2期鹿児島市上下水道事業経営計画」に掲げる取組を着実に実施していく。